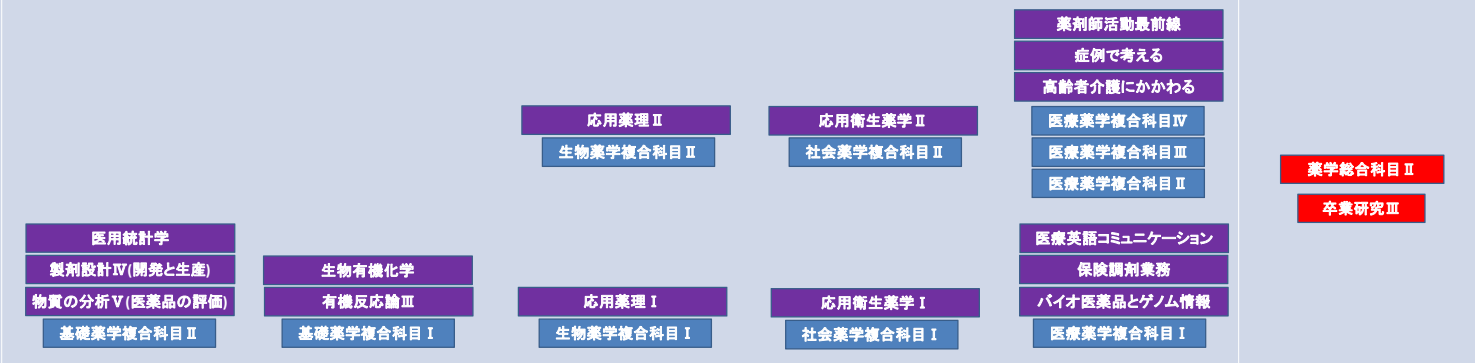


## 卒業試験

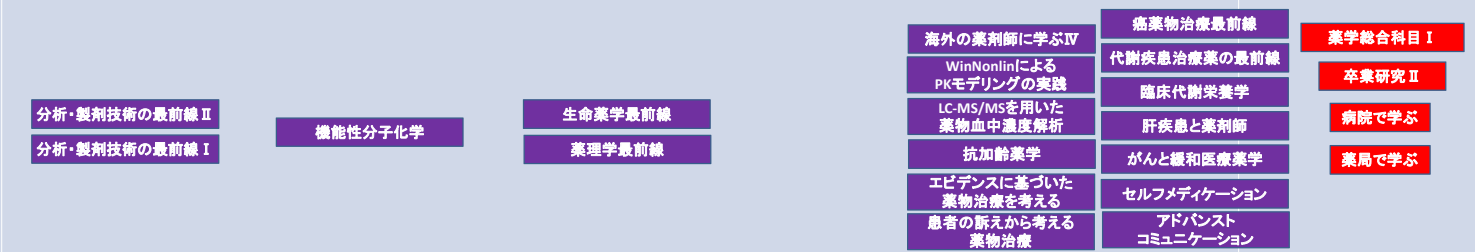
薬学総合科目Ⅲ

6年次



高学年においては、研究室に分かれて卒業研究を行うとともに、高度で社会とのかかわりの深い「アドバンス科目群」を学び、将来の進路を決定する助けとします。

5年次



アドバンス科目群

必修科目

5年生では、病院や薬局で臨床実務実習を行い、臨床現場で薬剤師に求められる知識・技能・態度を体験します。

## OSCE・CBT

4年次



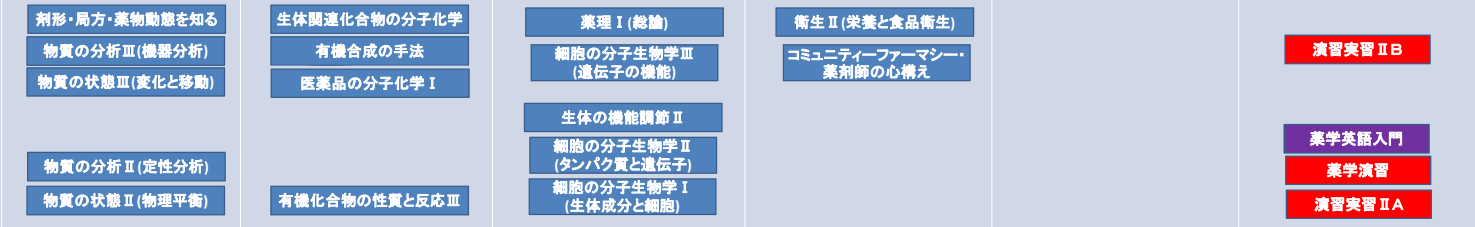
4年生では、薬剤師が臨床の場で活躍するために必要な、知識・技能・態度に関する「臨床薬学科目群」を、さらに薬を正しく取り扱うための法律や社会制度について学びます。

3年次



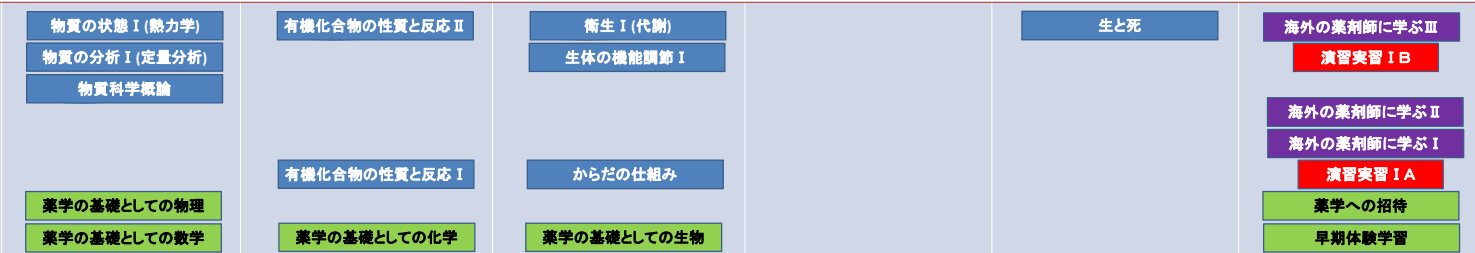
3年生では、薬がどのような剤形で使われ、どのような体内運命をたどり、どのようにして効くのか、そして、薬を必要としない健康はどのように得られるのかなどの「専門教育科目」を学びます。

2年次



2年生では、少人数クラスによる「薬学演習」をはじめ、薬の化学的・物理的そして生物的理解の基礎となる科目を学びます。

1年次



1年生では、「共通教育科目」や「基礎教育科目」を学ぶことで豊かな人間性と幅広い知識を、また「早期体験学習」から医療人としての心構えを植え付け、薬学を学ぶことへの動機づけを行います



## 卒業試験

薬学総合科目Ⅲ

6  
年  
次

医用統計学 製剤設計Ⅳ(開発と生産) 物質の分析Ⅴ(医薬品の評価) 基礎薬学複合科目Ⅱ	生物有機化学 有機反応論Ⅲ 基礎薬学複合科目Ⅰ	応用薬理Ⅱ 生物薬学複合科目Ⅱ	応用衛生薬学Ⅱ 社会薬学複合科目Ⅱ	薬剤師活動最前線 症例で考える 高齢者介護にかかわる 医療薬学複合科目Ⅳ 医療薬学複合科目Ⅲ 医療薬学複合科目Ⅱ	卒業研究Ⅲ
基礎薬学複合科目Ⅱ	基礎薬学複合科目Ⅰ	応用薬理Ⅰ 生物薬学複合科目Ⅰ	応用衛生薬学Ⅰ 社会薬学複合科目Ⅰ	医療英語コミュニケーション 保険調剤業務 バイオ医薬品とゲノム情報 医療薬学複合科目Ⅰ	

高学年においては、研究室に分かれて卒業研究を行うとともに、高度で社会とのかかわりの深い「アドバンス科目群」を学び、将来の進路を決定する助けとします。

5  
年  
次

分析・製剤技術の最前線Ⅱ 分析・製剤技術の最前線Ⅰ	機能性分子化学	生命薬学最前線 薬理学最前線	海外の薬剤師に学ぶⅣ WinNonlinによるPKモデリングの実践 LC-MS/MSを用いた薬物血中濃度解析 抗加齢薬学 エビデンスに基づいた薬物治療を考える 患者の訴えから考える薬物治療	癌薬物治療最前線 代謝疾患治療薬の最前線 臨床代謝栄養学 肝疾患と薬剤師 がんと緩和医療薬学 セルフメディケーション アドバンスコミュニケーション	卒業研究Ⅱ 病院で学ぶ 薬局で学ぶ
------------------------------	---------	-------------------	---	---	-------------------------

### アドバンス科目群

必修科目

5年生では、病院や薬局で臨床実務実習を行い、臨床現場で薬剤師に求められる知識・技能・態度を体験します。

4  
年  
次

## OSCE・CBT

薬学総合科目Ⅰ

薬学総合科目Ⅱ

自然が生み出す薬物Ⅱ	社会保障制度と薬剤経済 中毒学と放射薬化学	テーラーメイド薬物治療 患者情報の収集とコミュニケーション	卒業研究Ⅰ 病院・薬局に行く前に
物質の分析Ⅳ(臨床応用) 製剤設計Ⅲ(薬物送達システム) 有機反応論Ⅱ	薬理Ⅴ(化学療法) 薬理Ⅳ(代謝性疾患) 薬事関連法規・制度	薬物治療Ⅳ(代謝) 医薬品情報学 薬物治療Ⅲ(循環器) 薬物治療Ⅱ(中枢) 薬物治療Ⅴ(化学療法)	

4年生では、薬剤師が臨床の場で活躍するために必要な、知識・技能・態度に関する「臨床薬学科目群」を、さらに薬を正しく取り扱うための法律や社会制度について学びます。

3  
年  
次

製剤設計Ⅱ(半固形・固形) 製剤設計Ⅰ(液状・分散系)	医薬品の分子化学Ⅱ 自然が生み出す薬物Ⅰ 有機反応論Ⅰ 有機化合物の構造決定 有機化合物の性質と反応Ⅳ	微生物と感染症 薬理Ⅲ(循環器) 薬理Ⅱ(中枢) 免疫学	衛生Ⅴ(公衆衛生) 衛生Ⅳ(毒性) 衛生Ⅲ(環境衛生)	薬物治療Ⅰ(免疫) 生物薬理学Ⅱ(薬物動態の解析) 病態学Ⅱ(病態と診断) 病態学Ⅰ(症状と臨床検査値) 信頼関係の構築・調剤の基礎 生物薬理学Ⅰ(薬物の体内動態)	演習実習ⅢB 演習実習ⅢA
--------------------------------	---	---------------------------------------	-----------------------------------	---	------------------

3年生では、薬がどのような剤形で使われ、どのような体内運命をたどり、どのようにして効くのか、そして、薬を必要としない健康はどのように得られるのかなどの「専門教育科目」を学びます。

2  
年  
次

剤形・局方・薬物動態を知る 機器分析の原理と応用 反応速度と物質の移動 物質の定量Ⅱ 物質の状態Ⅱ	生体関連化合物の分子化学 有機合成の手法 医薬品の分子化学Ⅰ 有機化合物の性質と反応Ⅲ	薬理学総論 細胞の分子生物学Ⅲ(遺伝子の機能) 生体の機能調節Ⅱ 細胞の分子生物学Ⅱ(タンパク質と遺伝子) 細胞の分子生物学Ⅰ(生体成分と細胞)	栄養と健康 コミュニティーファーマシー・薬剤師の心構え	演習実習ⅡB 薬学演習 演習実習ⅡA
---	--	--	--------------------------------	--------------------------

2年生では、少人数クラスによる「薬学演習」をはじめ、薬の化学的・物理的そして生物的理解の基礎となる科目を学びます。

1  
年  
次

物質の状態Ⅰ 物質の定量Ⅰ 物質の構造 薬学の基礎としての物理 薬学の基礎としての数学	有機化合物の性質と反応Ⅱ 有機化合物の性質と反応Ⅰ 薬学の基礎としての化学	生化学入門 生体の機能調節Ⅰ からだの仕組み 薬学の基礎としての生物	生と死	海外の薬剤師に学ぶⅢ 演習実習ⅠB 海外の薬剤師に学ぶⅡ 海外の薬剤師に学ぶⅠ 演習実習ⅠA 薬学への招待 早期体験学習
---	---	---	-----	--

1年生では、「共通教育科目」や「基礎教育科目」を学ぶことで豊かな人間性と幅広い知識を、また「早期体験学習」から医療人としての心構えを植え付け、薬学を学ぶことへの動機づけを行います。

物性薬学  
科目群

分子薬学  
科目群

生命薬学  
科目群

社会薬学  
科目群

臨床薬学  
科目群

必修・アドバンス・  
薬学複合  
科目群

## 卒業試験

薬学総合科目Ⅲ

6  
年  
次

基礎薬学複合科目Ⅱ

基礎薬学複合科目Ⅰ

生物薬学複合科目Ⅰ  
生物薬学複合科目Ⅱ

社会薬学複合科目Ⅰ  
社会薬学複合科目Ⅱ

医療薬学複合科目Ⅰ  
医療薬学複合科目Ⅱ

医療薬学複合科目Ⅲ  
医療薬学複合科目Ⅳ

総合薬学研究Ⅱ

医用ナノテクノロジー  
医薬品を評価する

分子設計学  
医薬品の開発と生産

プライマリケア  
がんとの闘い

エコロジーを考える  
健康食品・サプリメントを知る

薬剤師活動最前線  
症例で考える  
高齢者介護にかかわる  
医療英語コミュニケーション  
保険調剤業務  
バイオ医薬品とゲノム情報

高学年においては、研究室に分かれて卒業研究を行うとともに、高度で社会とのかかわりの深い「アドバンス科目群」を学び、将来の進路を決定する助けとします。

5  
年  
次

薬局で学ぶ

海外の薬剤師に学ぶⅣ

病院で学ぶ

総合薬学研究Ⅰ

5年生では、病院や薬局で臨床実務実習を行い、臨床現場で薬剤師に求められる知識・技能・態度を体験します。

## OSCE・CBT

薬学総合科目Ⅰ

薬学総合科目Ⅱ

4  
年  
次

薬物送達システム  
分析技術の臨床応用

医薬品の分子化学  
生体関連物質の分子化学  
有機化学最前線  
現代医療と漢方処方

社会保障制度と薬剤経済

薬剤師と法律

患者情報の収集と管理  
テーラーメイド薬物治療  
信頼関係の確立を目指して  
医療の担い手としての心構え  
薬物の臓器への到達と消失  
疾患と薬物治療Ⅵ  
(消化器・造血器系)  
疾患と薬物治療Ⅴ(化学療法)  
疾患と薬物治療Ⅳ  
(内分泌・代謝系)

病院・薬局へ行く前に

原著論文を読む

演習実習Ⅳ

4年生では、薬剤師が臨床の場で活躍するために必要な、知識・技能・態度に関する「臨床薬学科目群」を、さらに薬を正しく取り扱うための法律や社会制度について学びます。

3  
年  
次

剤形を作るⅡ  
剤形を作るⅠ

有機合成の戦略  
有機化合物の構造決定  
有機合成の手法

感染症にかかる  
循環器系に作用する薬の働き方  
中枢神経系に作用する薬の働き方  
免疫と感染  
症候と臨床検査値

社会と健康  
環境と健康  
栄養と健康  
化学物質の生体への影響

疾患と薬物治療Ⅲ(免疫系)  
疾患と薬物治療Ⅱ(中枢神経系)  
疾患と薬物治療Ⅰ(循環器系)  
薬物動態の解析  
医薬品情報の収集と活用

演習実習ⅢB

演習実習ⅢA

3年生では、薬がどのような剤形で使われ、どのような体内運命をたどり、どのようにして効くのか、そして、薬を必要としない健康はどのように得られるのかななどの「専門教育科目」を学びます。

2  
年  
次

反応速度と物質の移動  
機器分析の原理と応用

有機化合物の性質と反応Ⅲ  
薬用植物と生薬

薬の作用と生体内運命  
生理活性分子  
細胞の分子生物学  
遺伝子の機能  
生体の機能調節Ⅱ  
タンパク質と遺伝子  
微生物

コミュニティーファーマシー

物質の定量Ⅱ  
物質の状態Ⅱ

有機化合物の性質と反応Ⅱ

生と死

演習実習ⅡB

演習実習ⅡA

薬学演習

薬学の基礎としての数学・統計

薬学英語入門

2年生では、少人数クラスによる「薬学演習」をはじめ、薬の化学的・物理的そして生物的理解の基礎となる科目を学びます。

1  
年  
次

物質の定量Ⅰ  
物質の状態Ⅰ

有機化合物の性質と反応Ⅰ

生体分子の代謝  
生体の機能調節Ⅰ

生と死

海外の薬剤師に学ぶⅢ

演習実習ⅠB

海外の薬剤師に学ぶⅡ

海外の薬剤師に学ぶⅠ

演習実習ⅠA

物質の構造

薬学と有機化学

個体と細胞

薬学への招待

早期体験学習

1年生では、「共通教育科目」や「基礎教育科目」を学ぶことで豊かな人間性と幅広い知識を、また「早期体験学習」から医療人としての心構えを植え付け、薬学を学ぶことへの動機づけを行います。

物性薬学  
科目群

分子薬学  
科目群

生命薬学  
科目群

社会薬学  
科目群

臨床薬学  
科目群

必修・アドバンス・  
薬学複合  
科目群